

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	株式会社PLUNURSE
事業所名	グループホームCruto
所在地	熊本県熊本市南区城南町東阿高一ノ尾1279-1
自己評価作成日	令和2年 2 月 24日
評価結果市町村報告日	令和3年 4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年 3 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>訪問看護が本部になるため他事業所に比べると看護との連携、医療面は強く、また施設にも看護師が在中しているため安心して生活が出来る点は強みである。また地域の医院との連携もとれており看取りの実績もある。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>本部は訪問看護事業を主としていることもあり、「介護度の高い方も安心して過ごせるグループホーム」を謳い、看護・医療の手厚いサポートで家族の安心度も高い事業所です。今年度は開設2年目として、地域との協力体制を進めようとしていた矢先の感染症対策で、対応に苦慮された様子が窺えました。入居者が事業所の中で過ごす時間も増え、中庭の一部に畑を作り作業を楽しんだり、一人ひとりの趣味を大切に過ごす支援が行われています。現在入居者の介護度も多様で個別対応も増えてきたようですが、毎週のカンファレンスでは、過介護にならないよう、残存機能を活かすことを意識したケアが話されている様子がありました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境作りを理念におき、入居者、ご家族から親しみやすい接遇をこころ掛けている。	家族や地域との結びつき、24時間体制の看護医療を謳った理念を読み上げることで事業所の一日がスタートする。今年度は感染症対策の面から地域との関わりが難しい状況であった。	昨年の外部評価後、事業所・入居者と地域との関わり作りに取り組んだ矢先のコロナ禍で苦労された様子が聞かれました。設立3年目を迎えるにあたり、改めてケアは理念に繋がるものであること、理念の持つ意味等を理解し、職員間での共有と実践に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出は難しが地域のお店の移動販売を活用し地域との結びつきを大事にしている。	開設以来の課題と捉え、具体的な取組みについて検討しているところである。今年度は運営推進会議の開催が難しかったので、自治会長等地域役員の方を訪問挨拶し、今後の繋がりへの取組みを行っている。	地域との結びつきは理念にも謳われています。事業所の取組みとして、入居者と地域の繋がりをを感じる機会作りに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方に発信ができていないが落ち着いたら地域との交流を設けたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度は一回しか開催できていないが資料を各家族宛へ送付し情報提供を行っている。	隔月開催の運営推進会議を開設以来続けてきたが、今年度は感染症対策のため1度だけの開催となり、書類での報告となった。会議には複数の入居者家族の参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区長、ささえりあ城南とは一年前に比べると連絡をとっている。事業所の実情、変更届など市とのやり取りをおこなっている。	運営推進会議等を通じて地域包括支援センターとの連携が大きい。市役所とは報告・届け出等を機会に協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修を3ヶ月に一回実施、理解しケアを行っている。玄関の施錠は国道が近い為、命を守るため施錠している。希望があれば付き添い対応している。	事業所職員で委員会を開催し、研修を行っている。「車椅子での立上りが見られる方に家族了承の上ベルトをすることがあるが、職員が付いている時には外すようにした」等事例が生じた際には検討を重ね、家族の了承を得た上で実施するようにしている。継続したものではなく、都度話し合い、職員対応で出来るだけ拘束をしない支援を行うようにしている。	身体拘束は、しないというケアの実践を職員が共有する学習や研修を望むと共に、家族の了承があった場合でも他に支援の方法はないものかどうか今一度話し合いをして、慎重にも慎重を試みられることに期待します。

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、職員間で注意ができる環境、またカンファレンスで議題にし話しあう。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在できていないため今後検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、必要時には連絡をとり説明したり対応ができています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響もあり、集まる機会はない状況。今後状況をみて機会を作る方針。	今年度は感染症対策で面会が出来ない時期もあり、予定していた運営推進会議や家族参加の行事開催も難しかったため電話での連絡・報告が中心となった。家族来訪時には職員より声をかけ、意見・要望を聞く機会を持っている。	今年度は感染症対策に配慮が必要でしたが、このような時期であるからこそ家族の関わりを大切にし、担当者会議の開催や面会方法に工夫する等、家族の来訪を促し、意見を出すことの出来る機会作りが必要と考えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日にカンファレンスをしている。随時意見ができる環境を整えている。	職員は日常業務の中で施設長へ意見を出す機会を持つ。毎週会議を行っており、その際にも意見を述べる事が出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度も賞与2回支給。全体会議なども勤務時間内に実施し残業をしない環境に務めている。まだ改善点もあるため今後の課題と改善に務める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響により研修などは今年は控えていた為できていない。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより外部との交流、勉強会はしていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけ、傾聴を心掛け、不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族の意向を聞いて実行に移し密に連絡をとる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要時、訪問看護導入し連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様同士、スタッフと入居者の関係を大事にしている。尊重し合う関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍での面会対応、電話や窓越しの対応、ライン活用し写メやテレビ電話対応		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や窓越しの面会、ラインや写メ、テレビ電話活用し努力している。	今年度は友人や地域との交流も出来なかったが、家族との関わりを大切にし、携帯電話を使っでの通話や写真送付、郵送による状況報告等を行っている。	

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや入居者同士が楽しく会話ができるような環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご夫婦で入居をされていたご利用者で奥様の体調不良により退居が余儀なくされた。お父様の情報をお伝えするときは奥様の状況も確認するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には確認しできる限り努めている。	現在、意向を表す事が出来る入居者は半数程おられ、入浴時等、職員と過ごすゆったりとした時間の会話で把握し、思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの生活歴を確認し日々の生活に取り組みるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に密に話し合いを行っている。	毎週カンファレンスを含む会議の際にはカンファレンスノートを利用して入居者の検討事項を予め出し、意見を出し合っている。計画に対する評価も職員間で話し共有している。基本的に年2回見直しを行っており、状態の変化は都度対応する。	グループホームの特徴である見守り支援や寄り添う支援の大切さを職員会議等で話し合い、入居者にとっての最良の生活支援と安全の検討を望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき等は記録に残し、気づいたことに関しては申し送りを行い共有している。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態やADLを確認しニーズにこたえられるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが落ち着き元の生活に戻りだしたら外出の計画、イベントなどを検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携出来ている。新規入居者でかかりつけなどがある場合は協力できるところは柔軟な対応ができるように努めている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現在近隣の数カ所の医療機関を利用している。往診もあるが、通院が必要な場合は職員が同行している。訪問看護の利用もできる。毎週歯科医の訪問があり、歯科衛生士による歯磨き指導もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼であったり日常の生活の中で看護師と情報共有、連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されている期間約一週間感覚で病院へ連絡し状況確認、状態確認を行って情報共有、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居された際に事前に重度化された場合や急変時の対応の書類を記載していただきスタッフ間で共有を図っている。また状態変化によっては3ヶ月から6ヶ月おきにご家族へ再確認の書類を送り近況の今後の対応時など変化がないか確認している。	入居時に重度化や急変時の対応について説明し同意を得ている。入居後も定期的に重度化した際についての確認書を送付し家族の意向を確認している。法人は介護度や医療依存度が高い高齢者の受入れを謳っており、訪問看護や医療連携の体制で支援に取組む体制を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていない。急変時の流れは把握している。今後の課題		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナにより外部との交流はできていない。	一部ではあるが入居者参加で防火訓練を年2回行っている。今年度は感染症対策により地域等への声掛け・協力依頼は出来なかったが、今後運営推進会議等を利用し協力を得る予定である。	近年、予想を上回る自然災害が発生しています。法人や地域の協力も大きな支えですが、第一段階として、職員間で「自分たちで守る」意識の再確認が期待されま
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心かけているが時に尊重している言葉ではなくついため口になっているときがある。今後の課題、対策を検討する。	入居者への対応時の声掛けや言葉遣いにおいて気になる事例が見られる際は、施設長より職員へ都度注意している。理念にも「個々の尊厳を大切に」が謳われており、取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になっているときがある。反省点、今後の課題		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、ひげそりなど気がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とともに準備や片付けを行っている。炊事、家事は喜ばれている。	2ユニットの中心部分に位置する台所で18人分の食事を職員手作りで提供している。下拵えや配膳等には入居者へ声をかけ関わりが持てるような支援を行っている。介護度が上がっても食事時間にはホールにてみんなで食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はきがけている。一回ではなかなか入らなければ提供する回数を増やして対応している。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後残存機能を維持するためにも自分でしていただいている。時には一部介助で対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けを行い、誘導をしている。個々にあわせたケアを行っている。	各ユニット3ヶ所ずつのトイレがあり、日中は出来るだけトイレでの排泄を支援している。パット、おむつへの移行が必要と思われる際には職員間で話し合いを重ね、共有している。夜間のおむつ使用やケア対応の統一を図る話し合いも行った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルトなど極力薬だけには頼らないように調整を行っている。運動不足傾向。要検討する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをおこない誘導している。個々にあった声掛け内容をスタッフが把握している。拒否がある場合は無理強いないで時間とタイミングを図ったケアを行っている	機械浴と寝たきり状態で入浴することができるハーバード浴の2つの浴槽がある。入居者はユニットに関係なく身体状況で使い分け利用しており、全ての入居者が湯船につかることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労時や状態によっては臥床していただき対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用時や変化などある場合は早急にドクターへ連絡、連携体制を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内でのパットゴルフ裁縫など個々に合わせた支援に努めている。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり出来ていないが今後検討していく。	一人ひとりのその日の希望による外出は難しい状況であるが、自由に出入り出来る中庭もあり、職員付き添いで外を散歩する入居者の姿もある。数名ではあるがドライブにも出向いた。通院も外出の機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響も出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光調整や室温調整は当然のこと四季折々の花などをお庭に植えこんでいる。	事業所内の環境整備は毎朝行っており、掃き掃除やモップ掛け等、入居者の手伝う姿もある。車椅子利用や歩行の妨げにならないよう安全にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人員配置は気を付けている。個々の状況によって柔軟な対応を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味や生活歴に合わせたものの持ち込みを	洗面台・ベッドが備え付けられた居室には、テレビやタンス、家族写真等が持ち込まれている。以前の趣味である絵や彫刻等を楽しむ入居者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に生活していただく環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境作りを理念におき、入居者、ご家族から親しみやすい接遇をこころ掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出は難しが地域のお店の移動販売を活用し地域との結びつきを大事にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方に発信ができていないが落ち着いたら地域との交流を設けたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年は一回しか開催できていないが資料を各家族宛へ送付し情報提供を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区長、ささえりあ城南とは一年前に比べると連絡をとっている。事業所の実情、変更届など市とのやり取りをおこなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修を3ヶ月に一回実施、理解しケアを行っている。玄関の施錠は国道が近い為、命を守るため施錠している。希望があれば付き添い対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、職員間で注意ができる環境、またカンファレンスで議題にし話さう。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在できていないため今後検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、必要時には連絡をとり説明したり対応ができています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの影響もあり、集まる機会はない状況。今後状況をみて機会を作る方針。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日にカンファレンスをしている。随時意見ができる環境を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度も賞与2回支給。全体会議なども勤務時間内に実施し残業をしない環境に努めている。まだ改善点もあるため今後の課題と改善に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの影響により研修などは今年は控えていた為できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナにより外部との交流、勉強会はしていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけ、傾聴を心掛け、不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族の意向を聞いて実行に移し密に連絡をとる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要時、訪問看護導入し連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様同士、スタッフと入居者の関係を大事にしている。尊重し合う関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍での面会対応、電話や窓越しの対応、ライン活用し写メやテレビ電話対応		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や窓越しの面会、ラインや写メ、テレビ電話活用し努力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや入居者同士が楽しく会話ができるような環境作りに努めている。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご夫婦で入居をされていたご利用者で奥様の体調不良により退居が余儀なくされた。お父様の情報をお伝えするときは奥様の状況も確認するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には確認しできる限り努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの生活歴を確認し日々の生活に取り組めるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に密に話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき等は記録に残し、気づいたことに関しては申し送りを行い共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態やADLを確認しニーズにこたえられるように努めている。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが落ち着き元の生活に戻りだしたら外出の計画、イベントなどを検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携出来ている。新規入居者でかかりつけなどがある場合は協力できるところは柔軟な対応ができるように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼であったり日常の生活の中で看護師と情報共有、連携できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されている期間約一週間感覚で病院へ連絡し状況確認、状態確認を行って情報共有、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居された際に事前に重度化された場合や急変時の対応の書類を記載していただきスタッフ間で共有を図っている。また状態変化によっては3ヶ月から6ヶ月おきにご家族へ再確認の書類を送り近況の今後の対応時など変化がないか確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていない。急変時の流れは把握している。今後の課題		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナにより外部との交流はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心かけているが時に尊重している言葉ではなくついたため口になっているときがある。今後の課題、対策を検討する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けし、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になっているときがある。反省点、今後の課題		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪、ひげそりなど気がかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とともに準備や片付けを行っている。炊事、家事は喜ばれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はきがけている。一回ではなかなか入らなければ提供する回数を増やして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後残存機能を維持するためにも自分でしていただいている。時には一部介助で対応している		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けを行い、誘導をしている。個々に合わせたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルトなど極力薬だけには頼らないように調整を行っている。運動不足傾向。要検討する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けをおこない誘導している。個々にあった声掛け内容をスタッフが把握している。拒否がある場合は無理強いせず時間とタイミングを図ったケアを行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労時や状態によっては臥床していただき対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用時や変化などある場合は早急にドクターへ連絡、連携体制を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	室内でのパットゴルフ裁縫など個々に合わせた支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり出来ていないが今後検討していく。		

グループホーム Cruto

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響も出ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援ができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光調整や室温調整は当然のこと四季折々の花などをお庭に植えこんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人員配置は気を付けている。個々の状況によって柔軟な対応を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味や生活歴に合わせたものの持ち込みを		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に生活していただく環境作りに努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホームクルト

令和 3 年 4 月 15 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域のつきあいが少ない。	グループホームCRUTOスタッフ、入居者様と地域の方が顔なじみの関係になる。	・グループホームCRUTOでのイベントへ招待。 ・地域のイベントに参加、清掃活動。	コロナが落ち着いたら。
2	6	身体拘束についての理解と取り組みに個人差がある。	身体拘束0を目指す。	・環境調整（外に散歩に出て気分転換） ・傍で寄り添うケア。 ・傾聴・レクリエーション	1ヶ月 （職員みんなまで）
3	10	利用者様とご家族の意見を取り入れる場を設けていない。	利用者様、ご家族の意向を尊重し、よりよい運営に繋げる。	・年に一回は、利用者様、ご家族参加の家族会の実施。	コロナが落ち着いたら。
4	34	急変や事故発生の対応の仕方の訓練が実施できていない。	急変時は、落ち着いて対応できるようにする。	・心肺蘇生、AEDの使い方を3ヶ月～半年に一回。	すぐに実行
5	7	権利擁護に関する制度の理解と活用ができてない。	・高齢者虐待防止 ・認知症の方の尊厳を守る。	・権利擁護の勉強会。・虐待についても勉強会。	2ヶ月（資料作成）

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。